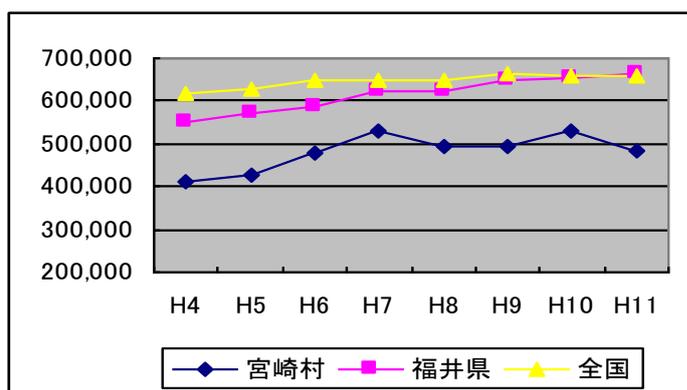


EM活用の取り組みと成果

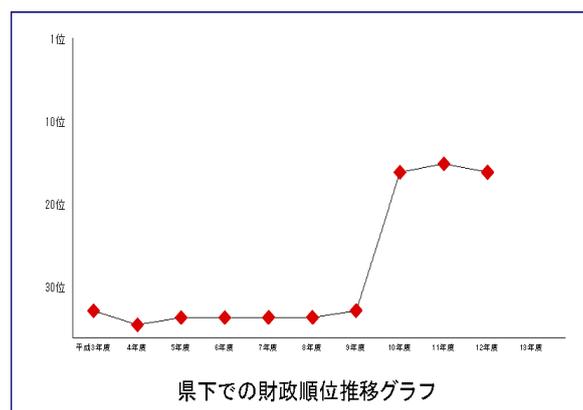
越前宮崎EM研究会

概要

福井県丹生郡宮崎村（現越前町）では平成6年当時、村の財政は3,000幾つかある市町村の中でも最も一人当たりの借金が多い行政の一つであり、医療費は福井県内で最も多い村であった。その村が、平成14年には、財政は健全化され、医療費は福井県で最も少ない村になった。税金が増たり、補助金が増たわけではない。まず村民の苦情に耳を傾け、公共下水にEMを活用し悪臭緩和と水質浄化に取り組んだ。その成果を踏まえ環境問題に取り組み、村民のアイデアにより、農業や陶芸等に取り組むことによって村民が健康になった。その結果、医療費が軽減され、特産品が生まれ、県内外からの視察者が増加するなど村の活性化にEMが上手に活用されEMが村おこしの一役を担ってきた。



医療費の推移



県下での財政順位推移グラフ

1. はじめに

当研究会は、平成7年2月に宮崎村EM研究会（平成17年2月町村合併により越前町）として会員数114名にて発足し、現在越前宮崎EM研究会として、今日に至って早15年が経過しています。

これまでのEMの活用により、環境保全・有機農業・安全で安心な美味しい野菜づくり・学校や公園等の溜池の水質浄化・各家庭等の掃除や排水の水質浄化等々、種々様々な所で活用しその成果が出ています。

又一方行政でもそれら成果を認め、下水道浄化セン



ターや集落排水浄化槽への活用・小中学校プールの清掃等に活用し、大変よい結果が出ておりローコストでハイクリオティな社会形成に役立っています。

今回、全国EM技術交流大会が地元福井県越前町にて開催されるに当たり、宮崎EM研究会の前記活動経過について、もう少し具体的に紹介し今回参加された方々への参考になればと、資料として出させていただきます。

2. EMとの係わり

まずEMとの係わりであります。平成5・6年頃から生活環境の向上による一般廃棄物の増大、生活排水による水質汚濁等生活環境の悪化が叫ばれ、国も一般廃棄物の減量化に補助金を出し、各自治体に呼びかけ、平成6年度より旧宮崎村では、家庭ごみの減量化に生ゴミの堆肥化を進めようと、当時個々にEMボカシで生ゴミの堆肥化や有機農業に取り組んでおられた方々にいろいろご指導を受け、村で女性を中心に環境リサイクル推進委員会を設置し、環境リサイクル推進委員と環境課職員にてEMボカシ和えによる生ゴミ堆肥化の講習会を各集落、及び婦人会・老人会等でも開催いたしました。



これら普及活動により（平成7年度対比平成9年度）可燃ごみで250t/年、と30%減量となりました。又これら行政主導では有りましたが普及活動等により、宮崎村EM研究会の発足や現在の安全で安心な美味しい野菜づくり、有機JAS認証農家の基となったことは言うまでもありません。

又、役場より国道365沿道スペース（休憩所）の活用について利用依頼があり、平成10年度より「健康有機野菜フリーマーケット」を6月より11月末まで毎週金曜日に出店し、安全で安心な美味しい野菜を販売し、利用者に大変喜ばれEMのアンテナショップともなっています。



平成14年、千葉県幕張メッセで開催された活力自治体フェアで「首長サミットーこうすればまちは確実に蘇る」のシンポジウムに木村村長が招聘された。15年には同じ会場で「いま注目・こんな首長にまちを委せたい」で取り組みの報告を行った。

平成14年にはブラジル・サンパウロ州ブロッタス市長が視察に来られるなど地道な取り組みが評価され全国からの視察の対応に忙しい日々が続いた。

3. 学校給食に食材提供

平成13年度にはかねてより会員から要望があった、自分たちで作った野菜を子供たちへ食べさせたいと、村教育委員会や学校給食センターと掛け合い、EM研究会として野菜を納入する事となり、会では給食委員8名を設置し、毎月学校給食センター栄養士に参加して頂き、翌月の献立に基づき食材を納入しています。

小学校では年に1度給食センター・児童・生産者と食育面からコミュニケーションの場があり、子供さんより「美味しい野菜ありがとう」とか「家のおばあちゃんの作ったジャガイモも給食に出るのでうれしい」等好評で、先生方からも食べ残しがほとんど無くなった、との事で現在では会員もやりがいを感じています。



4. 会員の資質向上の取り組み

又、研究会では会の発足当時より春・秋と野菜作り・土作り等の講習会を年に2回開催、年1回研修会として、先進地視察に県内外の有機の圃場や(財)自然農法センター京都試験場での学習会及び圃場の見学等を実施するなど上記の野菜フリーマーケットでの直売や学校給食センターへ野菜の納入への自信となっています。



安全安心の自家菜園の野菜作りから販売への付加価値の付いた野菜作りへと繋がり、金額的には少ないものの、作った野菜殆どが役に立ち消費出来る事が、野菜作りの楽しみとなり会員の活性化ともなっています。

5. 浄化センターの取り組み

一方、村では平成5年度より、下水道が100%全村で整備され、どこの集落でも水洗化されて、下水道の加入者が増えてきた平成8年頃より、汚水処理場付近の集落の家庭より天候や風向きによって悪臭(施設上法的脱臭装置完備)の苦情が出て苦慮していたところ、生ゴミの悪臭が取れた事にヒントにEMの活用を北陸EM普及協会の南先生

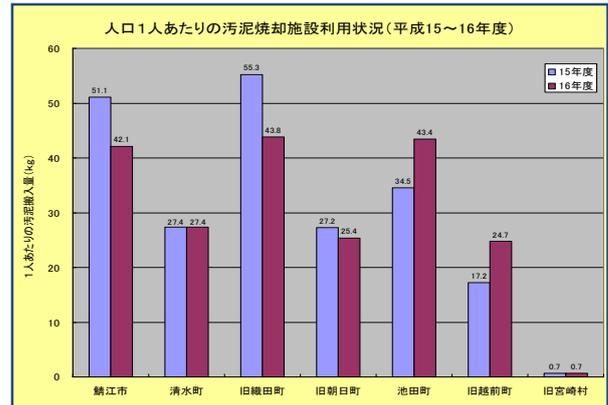


宮崎クリーンセンター

に相談をし、平成10年5月よりEM活性液の投入を試みたところ、2週間位経つと下水処理場の臭いが取れ、1ヶ月位経つと脱水ケーキ（汚泥）からの臭いも取れて、脱水ケーキの表面に白い糸上菌や酵母菌が出てケーキも好い醗酵していました。

又秋の11月頃になると処理場の管理人（メンテナンス会社）より脱水ケーキが少ないので脱水時間毎日を一日おきにさせて下さいとの申し出があり、脱水ケーキが減少していることと、下水の浄化水の水質が向上し、活性液投入前は放流水水質が、

BODで20ppm近くまで上がる事がありましたが、投入後は高くても10ppm越えることは無く、平均1～3ppmと安定して来たことに気づきEMの効果に驚いたものです。



6. 水質浄化の取り組み

小学校に約6ヘクタールぐらいの学校公園がありその中に約50アールぐらいの溜め池があります。その池の水が淀んでいたのを計ったところ透視度で40cmと淀みが酷かったので、学校とも相談したところ、当時、公園の自然観察や学校近くの、中小河川や田んぼ等の生きもの観察をしているエコクラブの活動としてやって下さいと言う事になりました。

9月上旬に2年から6年までのエコクラブの生徒さん20名と、EM研究会の会員15名とで、学校公園の土とEMボカシにEM活性液でまぜ、EM団子3500個を作りハッポウスチロールの箱につめて、電気室の暖かい部屋で白く醗酵させ、EM団子を2週間後の9月下旬に、エコクラブの生徒さん20名と会員で溜め池にEM団子の投げ入れと、活性液300ℓをポンプで投入し、他の生徒さんも参加し丹南ケーブルからのビデオ取りも来ており、大変楽しく有意義なエコ活動でありました。

そして三日ごとにエコクラブの生徒さんに、溜池の透視度を計測して貰ったところ

3週間後に1.2m迄透視度が上がり、池の中の緋鯉や真鯉他の魚も水面まで来なくても、見えるようになり、生徒さんや先生方と拍手をしてよろこび、EMの成果に感動しました。



7. 比嘉教授講演会開催

又平成17年2月の四町村合併に伴い、EMの活用を越前町全域に広めようと、朝日・越前・織田地区へとEMの活用の成果等について、各事例を紹介しながら普級活動を行い、上記三地区の方々のご賛同と越前町当局のご支援の下、平成17年10月30日に、EMの創始者であります、沖縄の琉球大学比嘉照雄教授を招き「越前環境フェア」を開催し、それを基に「越前海土里の環境ネットワーク」を設立し現在に至っていること、各地区で目覚ましい活動が行われEMが益々広がり町民生活の糧となっております。

8. 今後の取り組み

越前海土里の環境ネットワークが、設立し5年が経過し今回「第16回全国EM技術交流会北陸大会 in 福井」のこの大きな大会が越前町にて開催されることは、越前海土里の環境ネットワークにとって、意義深いものであります。日々の一つ一つの活動が、こうした大きな成果として表れて又一つ飛躍し、それが住民に浸透しこのすばらしい越前の自然環境を、未来を託す子供と孫たちのために、今の我々が努力しなければならない義務として継続し普及して行きたいものであります。



ブラジル・ブロッタス市長視察



活力自治体フェアで報告

活力自治体フェア・全国EM技術交流会事例集より抜粋引用